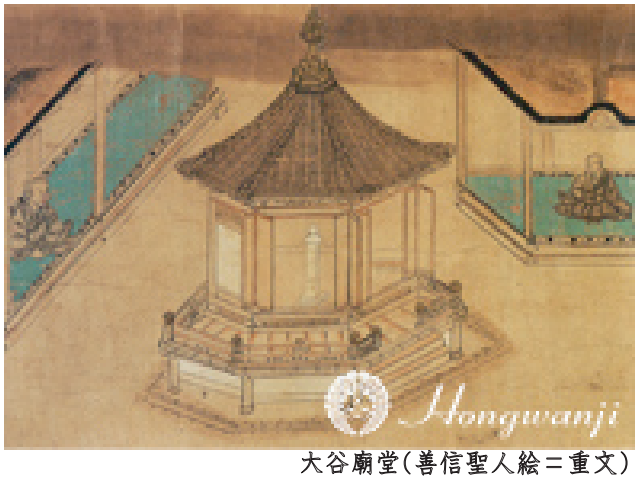
善教寺 ZENKYO-JI

寺報 縁

2018年（平成30年） No. 274 9月号

Zenkyo-ji monthly Communications Paper En ［えん］

なるほど 本願寺 その15



大谷廟堂（善信聖人絵＝重文）

本願寺の歴史　パート１

浄土真宗は、鎌倉時代の中頃に親鸞聖人によって開かれたが、その後、室町時代に出られた蓮如上人によって民衆の間に広く深く浸透して発展し、現在では、わが国における仏教諸宗の中でも代表的な教団の一つとなっている。もともと、本願寺は、親鸞聖人の廟堂から発展した。

親鸞聖人が弘長2年(1263)に９０歳で往生されると、京都東山の鳥辺野の北、大谷に石塔を建て、遺骨をおさめた。しかし、聖人の墓所はきわめて簡素なものであったため、晩年の聖人の身辺の世話をされた末娘の覚信尼さまや、聖人の遺徳を慕う東国の門弟達は寂莫の感を深めた。

そこで、10年後の文永9年(1272)に、大谷の西、吉水の北にある地に関東の門弟の協力をえて六角の廟堂を建て、ここに親鸞聖人の影像を安置し遺骨を移した。これが大谷廟堂である。

この大谷廟堂は、覚信尼さまが敷地を寄進したものであったので、覚信尼さまが廟堂の守護をする留守職につき、以後覚信尼さまの子孫が門弟の了承を得て就任することになった。（次号に続く）

住職レター

西日本豪雨災害から、約ひと月半。復興復旧が急ピッチで進む中、被災したある方から、お話を伺っていますと、「あの時のまま時間が止まっている…」と。壊れた物は修復すれば良いですが、思い出の物や心の傷は、時間の経過と共に癒されるものではありません。

お墓に土砂が流入し、墓石から遺骨まで全て流された方が、テレビのインタビューで、辛い思い先の見えない徒労感を話されていました。何もして上げることが出来ない申し訳なさと、お気持ちを吐露されている方の心情を思うと、ただただ心が痛くなりました。

お盆に、善教寺本堂へお参りに来られた、地元のある会社経営者の方は、会社敷地内に流入した土砂を撤去するため、会社の営業を全て止め、従業員総出で土砂の撤去作業を毎日されているとのこと。事務職の女性スタッフから調理場のコックさんまで総動員だそうです。この会社経営者の方から、豪雨災害直後の、敷地内に流入した土砂現場を見た時の思いを聞かせてもらいましたが、お聞きするだけで目頭が熱くなり、手を差し伸べることが出来ない無力感にさいなまれました。

被災された方々の心が癒されるのは、かなりの年月を要すると思います。皆さまの安穏なる生活が戻りますこと、心よりお祈り致します。

善教寺本堂北側の庭園

発行日：2018年8月25日（毎月25日発行）発行所：浄土真宗本願寺派 善教寺
〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248